

地質調査技士資格検定試験に合格して

東北ボーリング株式会社 葛巻 圭吾



【1. はじめに】

私は、令和4年度地質調査技士資格検定試験を受験し、無事合格する事が出来ました。拙い文章ではございますが、自分なりに合格に至るまでの体験を紹介いたします。

【2. 試験勉強】

① 択一問題

定番の勉強法ではございますが、過去問を解くことに注力しました。全地連のホームページから過去5年分の問題を印刷し、実際の試験時間と同様の時間制限を設けて問題を解きました。1年分解くたびに採点を行い、間違えた部分を抽出しました。間違えた箇所は、先輩に頂いたボーリングポケットブック等を使用して、何を間違えたかを確認し、ノートにまとめていきました。これを繰り返し、おそらく4~5周回したと思います。正答率は最初は5~6割程度でしたが、最終的には8~9割に仕上げました。ノートにまとめる量も段々と減っていき、自分の中で「解ける」という強い自信になっていきました。

② 記述問題

必須問題である技術者倫理に関しては、暗記しました。試験前のラスト2週間くらいから、起床直後と就寝前に音読しながら紙に書いて覚えました。また、仕事中でも野帳の背表紙に倫理を書いておき、休憩中などに音読しました。

選択問題については、土質試験や物理探査の問題は無理だと割り切って、業務経験に関する問題の攻略に注力しました。過去に行った業務の中で、「説明しやすい・覚えやすい・うまくいった」業務を選んで、構成を考えながら書き出して暗記しました。

③ 事前講習会

事前講習会では、講師の方々より、過去問の頻出問題や学習のポイント等をわかりやすく解説いただきました。この時に配布されたテキストブックは、講師の方々の解説と同様にわかりやすくまとめ

られており、間違えた部分や不安な部分を確認するうえで非常に役立ちました。

【3. 試験当日】

試験当日は、平日と同様のリズムで起きて、いつも通りの朝食をしっかりと食べて会場に向かいました。会場に着いたのは、ちょうど開場時間くらいでした。

択一問題については、傾向が変わったとまではいきませんが、雰囲気が変わっていて少し動揺しました。うまくは言えませんが、過去問と比べて1個1個の問題内容が濃くなっている気がしました。とりあえず、わかる問題から解いていきました。

記述問題に関しては、想定範囲内での出題だったので、特に気にせず使えそうな現場を選んで丁寧に解きました。

【4. 合格発表】

自己採点は、受験の手ごたえがなかった割には良く、約7割解けていた感じでした。

記述問題に関しては、書く事覚えた事を書いてきたので、とりあえずベストは尽くしたという満足感がありました。

しかし、択一問題は雰囲気が違った事で果たして7割で安全圏に入っているのだろうかという不安を抱えながら、日々を過ごしました。全地連のホームページでの合格発表で、自分の番号があった時は、ホッとしました。

【5. 今後】

今年受からないと来年には後輩も受験できるようになってくるので、正直かなりプレッシャーを感じていました。無事に合格する事ができ、先輩からもらったボーリングポケットブックを後輩にパスすることができて良かったです。

しかし、業務を遂行するにあたっては、まだまだ未熟で至らぬ部分が多いと感じる日々です。今回得た資格が、“名ばかり”にならないように今後も日々研鑽を積んでいきたいです。純粋に経験値も諸先輩方と比べて不足しているの、貪欲に知識や技術を得ていきたいです。

明治コンサルタント株式会社 大内 正法



私は令和4年度（第56回）地質調査技士資格検定試験（現場技術・管理部門）を受験し、合格することが出来ました。

これから受験される方のご参考になることを願って、執筆依頼にお応え致します。

私は地質調査とは全く異なる業種から、現在の会社に中途採用して頂きました。

知識がゼロの状態から、今日まで現場管理等を通じて経験を積んで参りました。

これまでは繁忙期に時間が取れず、準備不足の状態での受験となっていました。

今年度は、試験直前の現場管理を交代して下さった周りの方のサポートもありました。それに応えるべく、真剣に取り組んだことが合格につながり嬉しく思います。

1. 事前講習会

試験の採点の際に加点されることもあり、平成30年に検定試験事前講習会を受講しました。テキストを基に近年の出題傾向も交えた講義を受けました。

基礎から丁寧に説明して頂き、これまで理解不足であった点が明確になりました。

出題の範囲は多岐にわたり、受験の手引きに記載されている参考図書が数多くあるため、要点が1冊にまとめられたテキストは自習の拠り所になりました。

2. 社内勉強会

社内においてはweb会議形式で勉強会が実施されました。

社内で同じ目標に向かって受講者がいることは、とても励みになりました。

令和2年は毎週受講しておりましたが、その年はコロナ禍の影響で試験が中止となりました。

本年度は4月から勉強会が行われました。夜間の現場管理と重なり、受講出来ない日もありましたが、可能な限り参加するようにしておりました。

同時に学んだ忘却曲線を念頭に置いて、復習するまでの時間が長くならないように、記憶の定着を目指しました。

講師の方々には過去問の解説に加えて、日頃の業務に繋がる経験談を交えながら話して下さり、試験対策以上の貴重な時間を得ることが出来ました。

3. 択一問題

受験の手引きに記載されている可否の判定基準によると、一次判定を通過しないと最終判定の対象とならないため、記述問題より多くの時間を費やしました。

択一問題は過去5回分を、1～6の分野ごとに分けて、偏らないように学習しました。

また、過去問に出題されていなくとも、派生的な疑問、近年改正された法律やJIS規格等は、知識を深めるためインターネットで調べて自分でまとめました。

4. 記述式問題

記述の回答用紙は20文字×30行であるため、ワープロソフトの原稿用紙で文章を作成しました。書いて覚える時も回答用紙のようなマス目の紙を使用していました。

4.1 必須問題（記述）

必須問題である倫理綱領は、頭の中で唱えて、躪いたらスマートフォンで確認していました。試験の数日前から、書いて暗記する方法に移行しました。

また、9つの倫理の文頭に、自分で作ったピクトグラムを付けて、イメージとして思い出せるようにしていました。

H30、R1は倫理を全て記述するものでしたが、昨年度から再び「日頃から実践していること」が出題されるようになりました。これらも字数制限を考慮して、3パターンを記述できるようにしておきました。

4.2 選択問題（記述）

選択問題は、「自分が実施した調査」に絞り込んで、出題の調査対象が変わっても対応できるように、いくつか作成しました。項目ごとの内容と制限字数を考慮し、簡潔で伝わり易い文章を心掛けました。文章完成後に概略図を描いて、前述の必須問題同様、イメージとして記憶できるようにしました。

5. 最後に

この度、合格出来て、少し自信につながりました。

今後は、これまで以上に専門技術と知識の向上に努め、次なる目標に向けて日々チャレンジして参ります。

株式会社ダイヤコンサルタント 阿南 春平



令和4年度に試験を受験し、めでたく合格することができましたので、その際の体験記を書かせていただきます。

【受験するにあたり】

私は入社から4年間、構造物点検などの業務をメインに担当していましたが、東北支社に転勤した際、地質調査人員が不足ということで、昨年の春から地質調査の業務を担当することになりました。

それまでは、地質調査技士資格の受験は全く考えていませんでしたが、地質調査の業務に取り組むうえで重要な資格であることを知り、早期の取得が求められていました。

昨年は調査1年目ということもあってぶっつけで挑み、当然不合格でした。

【受験勉強】

試験勉強では、事前講習会のテキストと社内で作成されたクイズ形式の過去問アプリを活用しました。このアプリは5年分過去問が網羅されており、空き時間にクイズを解く感覚で手軽に復習ができました。

最も苦勞したのは技術者倫理の暗記です。一般より記憶力の低さを自覚していたので毎日2・3回倫理綱領を全て書き出して何とか覚えることが来ました。

選択問題は過去問から、岩盤か土質調査の実施方針や結果の考察を問う問題が出題される傾向だったので、業務を振り

返し、計画段階から成果作成までの流れを簡潔に書けるように頭を整理しました。

【試験当日】

試験が開始し、すぐに試験勉強で大きな誤りが判明しました。過去問アプリで熱心に勉強してきたのですが、それには図表を用いた問題は網羅されておらず、文章のみで完結した問題しかなかったのです。考えればすぐにわかることですが、過去問そのものをあまり活用していない杜撰な勉強法が仇となりました。

しかし、テキストで予習していた問題もいくつかあり、絶望的ではないな、とポジティブにいました。午後は暗記した倫理綱領を爆速で一言一句違わずに書き殴り、選択問題も例年と同じもので対策が功を奏しました。一時は顔面蒼白でしたが、終わってみれば、これはひょっとするかも？ と胸をなでおろしました。

【終わりに】

合格したときは安堵しました。最大の理由は、例年地質調査技士受験の次の週は技術士の2次試験があるので2週連続休みが潰れる地獄のループを抜け出せた事です。

事前講習会はおすすめです。試験勉強はもちろん、テキストも役に立つので、未受講の方は受けてみてはいかがでしょうか？ ボーナスの加点もうれしいです。